

巻頭言

「うるう年と国際難聴者会議」

理事長 新谷 友良

今年はうるう年。オリンピックと国際難聴者会議はうるう年に開かれるので、記憶するのに便利です。2004年フィンランドでの第7回国際難聴者会議とアテネオリンピック。2008年カナダでの第8回国際難聴者会議と北京オリンピック。2012年ノルウェーでの第9回国際難聴者会議とロンドンオリンピック、といった具合です。

聞こえなくなつて協会に入り、最初に出会ったのが2004年のフィンランドでの国際難聴者会議でした。ヘルシンキのフィンランディア・ホールで開催され、右も左もわからずに準備と参加にあたりました。勤務の関係で全難聴のツアーに参加できず、自分で買った航空券で行き帰りしたのですが、フィンエアーの人たちが親切でトラブルはありませんでした。到着した日の夕食では、ツアー参加の人たちのグループディナーの横でひとりトナカイの肉の煮物とワインを注文して、皆さんの様子を見ているのは奇妙な体験でした。この会議で、障害者権利条約の策定に向けての活動があることを初めて知りました。

2008年はバンクーバーのシェラトン・ウォールセンターでの開催。全難聴の国際部長をしていて、ツアーの面倒をみるのに忙殺され、会議の中身はあまり記憶していません。それでも、オプションツアーでアフタヌーン・ティーを初めて経験したり、会議の合間を縫ってダウンタウンまで歩きラーメンを食べたりしました。

直近は、2012年ノルウェーのベルゲンでの国際会議。東日本大震災の1年後で、震災についての分科会発表とパネル展示を行いました。会議事務局の人が非常にフレンドリーで、日本人のための情報保障の準備にいろいろ気を遣ってくれました。また、ベルゲンではめったにない好天が続き、フィヨルドのクルーズは快適で、今もそのときの写真をデスクトップのパソコンの壁紙に使っています。

今回の第10回国際難聴者会議はアメリカ・ワシントンDCでの開催。アメリカの6月は観光にも最適の季節です。全難聴は、ツアーを組んで会議参加を続けてきましたが、聞こえなくても海外旅行を楽しむ人が増えており、このような参加形態もそろそろ終わりかもしれません。いろいろな感慨を持ちながら、4回目の国際難聴者会議に参加を予定しています。